



平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。また、本校の6年生は、単学級ですので個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

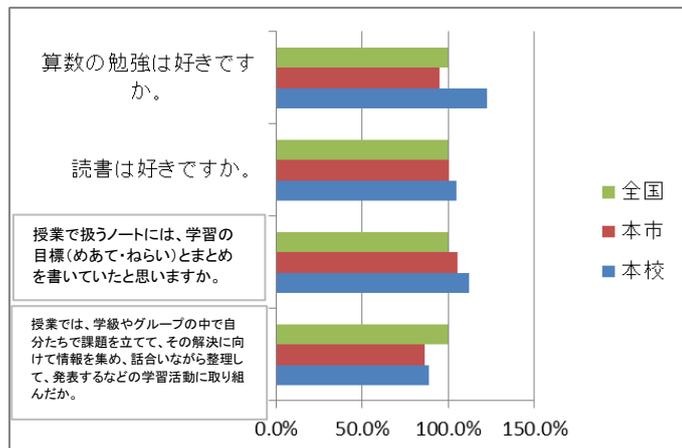
カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する問題については、正答率が高く、話すこと・聞くことや書くこと、読むことなど言語についての知識・理解など基礎ができていた。 ・文の主語として適切なものを選択する問題については、正答率が低かった
国語B	・国語への関心・意欲・態度も高く、記述問題に対しても、苦手意識をもたず、粘り強く取り組むことができるようになった。その結果、読んだり、書いたりする力も付いてきている。 ・見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する問題の正答率が低かった。
算数A	・除数が整数である場合の分数の除法の正答率が高く、整数や分数の四則計算においては、ほぼ定着している。 ・式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解させる問題の正答率が低く、数量の関係を捉えたり、図形の性質を理解することに課題がある。
算数B	・図形の面積を求めたり、「数と計算」領域においては、基礎な内容を理解したりすることができていた。 ・単位量当たりの大きさを用いて、買い物の仕方を選択し代金を求める問題の正答率が低く、数量関係を捉えたり、図形の性質を捉え活用したりする問題に課題がある。
理科	・どの領域においても基礎的・基本的な内容の定着に課題があった。 ・実験や観察を基に考え、なぜそう考えたのか判断の根拠について明確にし、理由を説明する問題に課題があった。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・「朝の読書」などの一斉読書の時間の確保はできている。そのため、読書好きな児童も多い。

・授業で扱うノートにめあてとまとめを書くように指導したり、学級やグループで話し合う活動をしたりしてきている。しかし、学級やグループの中で自分達で課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習機会は、与えられていないと答えている児童が多い。今後は、児童自ら課題を設定し解決していく授業を行っていく。

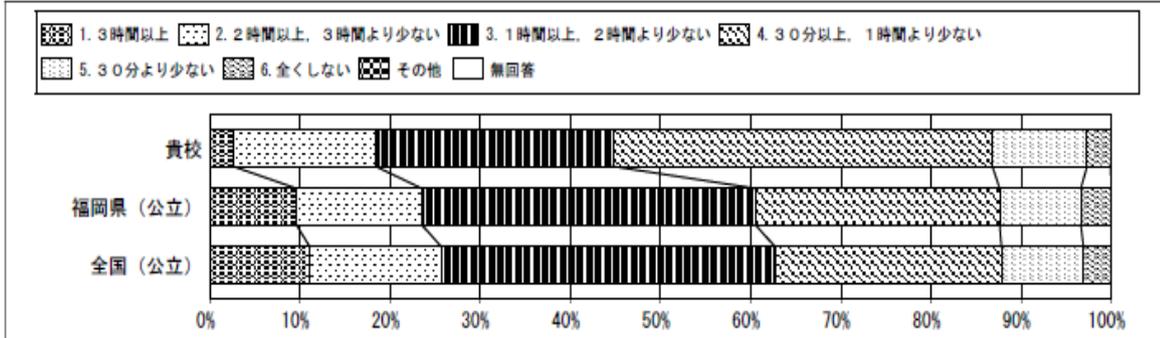
・どの教科も無回答率は減ってきているものの、理科においては、基礎的・基本的な内容の定着と活用に課題があった。観察や実験を行う際には、予想を立て、結果を基に考察し判断の根拠について明確にする授業をいねいに行っていく。



2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

平日の一日当たりの家庭での学習時間(学習塾や家庭教師の時間を含む)



- ・家で学校の宿題をしている児童は、多い。予習や復習をしているという意識の高い児童も多い。しかし、自分で計画を立てて勉強しているという児童は、少ない。
- ・上記のグラフからも分かるように、家庭での学習時間が1時間未満と回答した児童の割合は、全国に比べて高い。また、自分で計画を立てて勉強している児童の割合も低く、課題である。

② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・朝食を毎日食べなかったり、就寝や起床時間が一定しなかったりなど、基本的な生活習慣が定着していない児童が多い。
- ・1日の内で、テレビやビデオ・DVDを見たり、テレビゲームをしたり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする児童がかなり多い。
- ・上記のような課題はあるものの、自尊感情が高く、将来の夢や希望を持っている児童の割合は、かなり高い。それぞれの目標を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせると効果が期待される。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 学力向上に関する職員研修の実施(11月中旬)
(全国学力・学習状況調査と昨年度末のCRTの結果と一学期の児童の様子を踏まえ、課題把握と取組について)
- 実態に合った授業の工夫
 - ・国語では、主題研究とも連携して言語活動を工夫して目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすることを充実させる。
 - ・算数では、授業において、基礎基本の定着を図るとともに、自力解決のあとの話し合い活動や活用を大切に授業を行う。
 - ・理科の授業においては、まず、分かる授業を行うことが重要である。そして、課題・予想・実験(観察)・結果・考察の授業の流れを大切に授業を行う。
- 11月の研修の際に「総合的な学習の時間」の授業の在り方について見直し、児童自ら課題を設定して解決していく授業を行っていくように確認する。また、地域での体験活動やゲストティチャー(地域の方)の活用を図る。
- 学力向上のための全校一斉特設時間の継続

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 全国学力・学習状況調査の課題と取組を保護者に周知する。
 - ・学校だよりや学校ホームページによる啓発
- 宿題のスタンダード化を図る。
 - ・家庭学習時間においても、11月の職員会議にて内容や時間において共通理解を図り、各家庭に家庭学習の手引きを配布する。学年によって、およその時間(1・2年30分程度 3・4年45分程度 5・6年60分以上)を設定したり、学習内容の例を提示するなど宿題のスタンダード化を図る。
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用。
 - ・毎月、月末に学校で集め、自分で学習の計画・実行・振り返りができているか学校で確認するようになる。